

令和4年度病害虫発生予報第7号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	吸実性カメムシ類	少	少
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類	少 並 並	少 並 並
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G.cingulata</i>) アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 やや多 並 やや多 やや少	並 やや多 並 やや多 やや少
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 オオタバコガ	並 並 やや多	並 並 やや多
かんきつ	かいよう病 緑かび病、青かび病 ミカンハダニ アカマルカイガラムシ カメムシ類	多 少 少 並 並	多 やや少 少 並 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.9%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率16.7%)。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は2.0%(28.3%)、株当たり虫数は0.0頭(0.5頭)であった。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.9%、発生圃場率14.4%)。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.6%(0.9%)、発生圃場率は15.0%(15.6%)であった。

3. ヨトウムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は2.8%(3.1%)、発生圃場率は40.0%(25.0%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は14.8%(8.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗後期の降雨の影響による感染で、定植後の発病が懸念されるため、圃場の見回りを徹底する。

イ 発病及び枯死した株は、見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場内及び周辺に放置せず、適切に処分する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.1%(1.2%)、発生圃場率は25.9%(23.0%)であり、一部多発圃場が認められた。

4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.4%(4.1%)、発生圃場率は40.7%(24.9%)であった(図)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

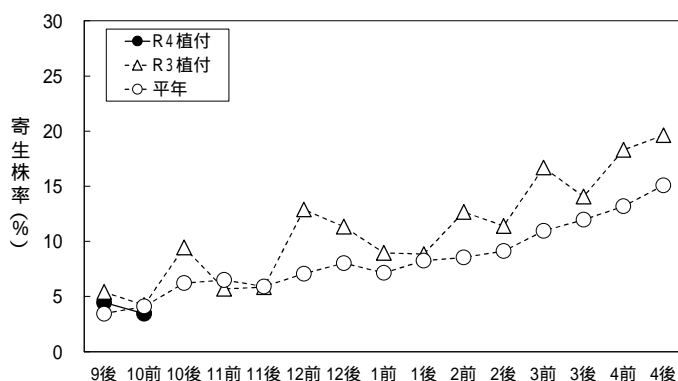


図 いちご ハダニ類 寄生株率

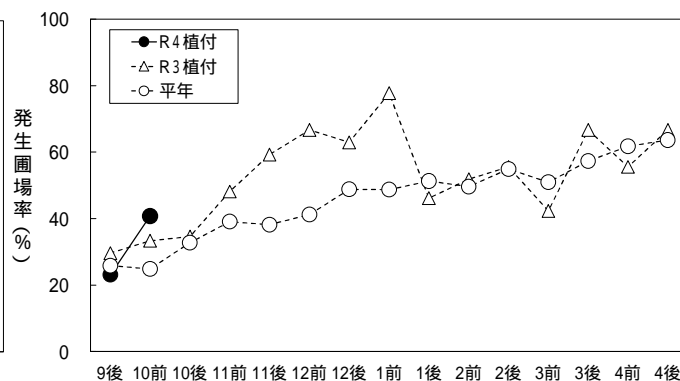


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ビニル被覆後はハダニが増加しやすいので、被覆前までの防除を徹底する。
- イ 薬剤散布前には古葉の整理を行い、薬剤が葉裏までかかるようにする。また、摘葉した古葉は、速やかに圃場外に持ち出し適切に処分する。
- ウ 天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を用いて防除を行い、ハダニの密度を極力低減した上で放飼する。
- エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P216～219の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月前期の巡回調査（27筆）の結果、食害株率は2.4%（6.4%）、発生圃場率は44.4%（62.4%）であった。
- イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ（諫早市）による誘殺数は、10月以降平年より少なく推移している（図）。

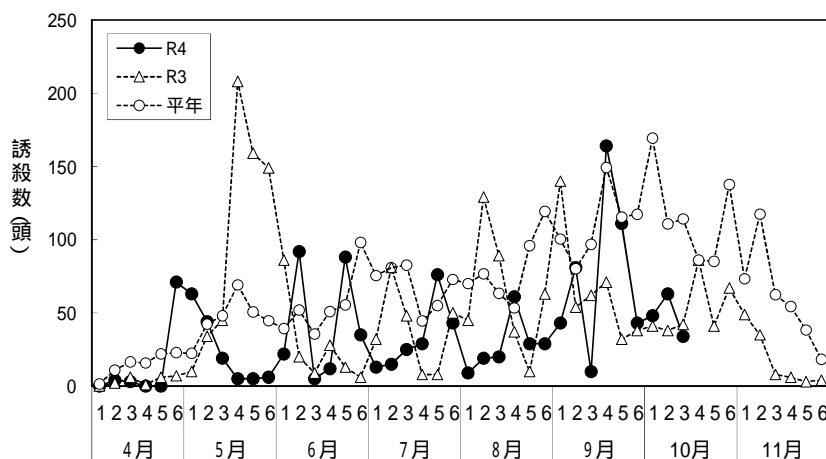


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町) (月・半旬)

ブロッコリー

1. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生株率は2.7%（4.2%）、株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は33.3%（37.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P240～243の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。なお、ジアミド系薬剤（28）で効果が低い個体群が県内で確認されているため、殺虫効果の低下が疑われる場合は別系統の薬剤を散布する。

2. ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査（12筆）の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は1.0%

(2.5%)、発生圃場率は33.3%(28.1%)であった。シロイチモジヨトウの寄生株率は1.3%(1.7%)、発生圃場率は25.0%(19.4%)であった。
 イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月以降平年より少なく推移している(いちごの項参照)。
 ウ シロイチモジヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、9月以降平年並で推移している(図)。

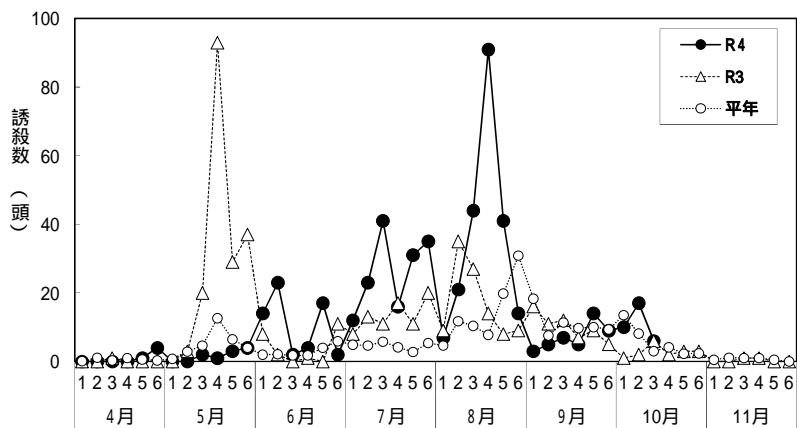


図 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数 (諫早市小船越) (月・半旬)

3. オオタバコガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.3%(0.3%)、発生圃場率は25.0%(5.2%)であった。

イ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、平年より少なく推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は花蕾部に食入すると薬剤がかかりにくくなり、防除効果が低下するので、早期発見、早期防除に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P240~243の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤の連用を避ける。

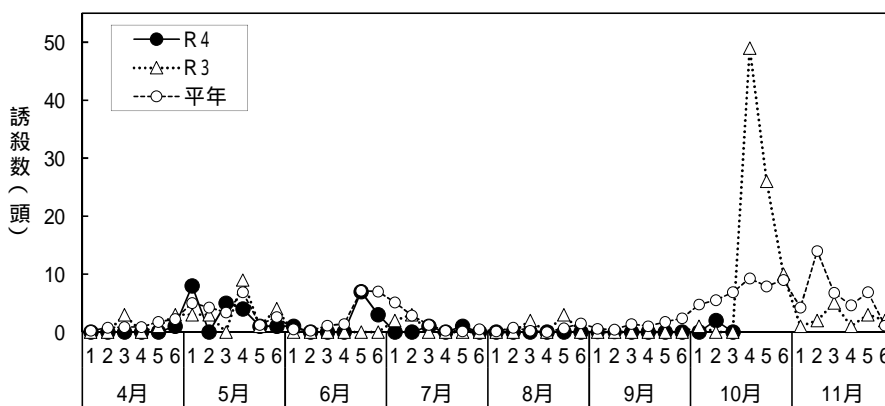


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越) (月・半旬)

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 多

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は0.6%(0.2%)、発生圃場率は25.0%(6.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

イ 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、強風雨が予想される場合は事前に薬剤散布を行う。

2. 緑かび病、青かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率3.5%)。

イ 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 胞子が形成された摘果果実や樹上の発病果は見つけ次第、取り除き処分する。

イ 雨の日や雨の翌日に果実に水滴が残っているときは収穫を行わない。また、果実に傷を付けないように収穫、運搬、選果を丁寧にする。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は0.5%(3.3%)、発生圃場率は2.8%(28.5%)であった。

4. アカマルカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生果率は0.2%(0.3%)、発生圃場率は5.6%(3.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

園地をよく観察し、多発園においては使用時期、使用回数等、使用基準を遵守し薬剤防除を実施する(ただし、収穫間近の園や品種を除く)。

5. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップの誘殺数は、各地点とも9月以降、平年並~やや少で推移している(図)。

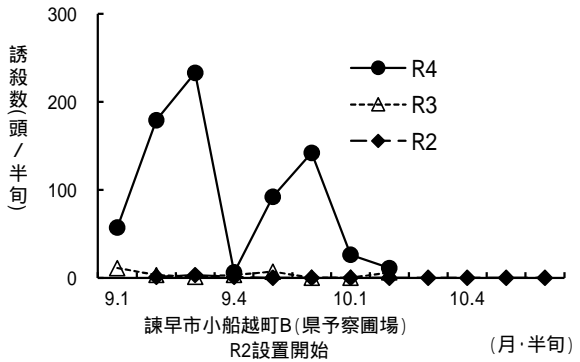
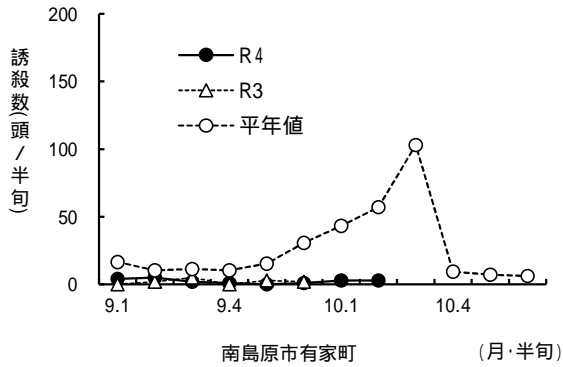
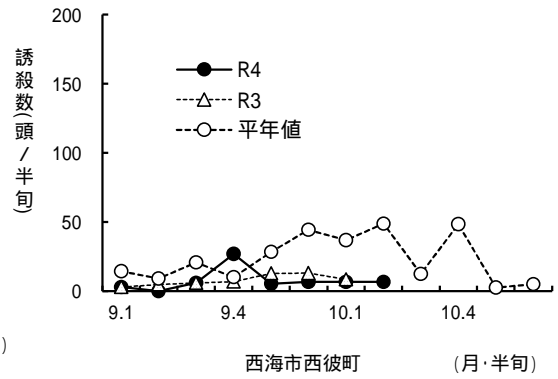
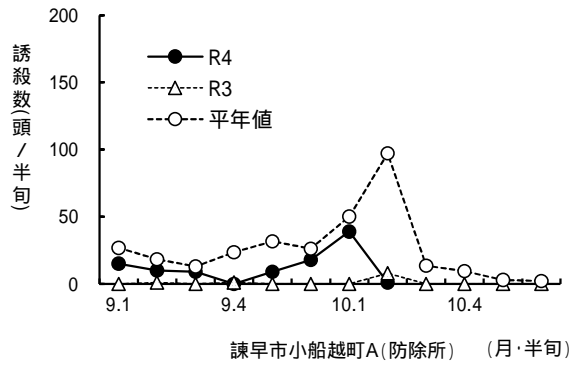


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア カメムシ類は園によって集中加害するおそれがあり、また、山林に近い園ほど飛来が多くなる傾向にあるので、果樹園の見回りを徹底するとともに、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。
- イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布に当たっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

【参考】

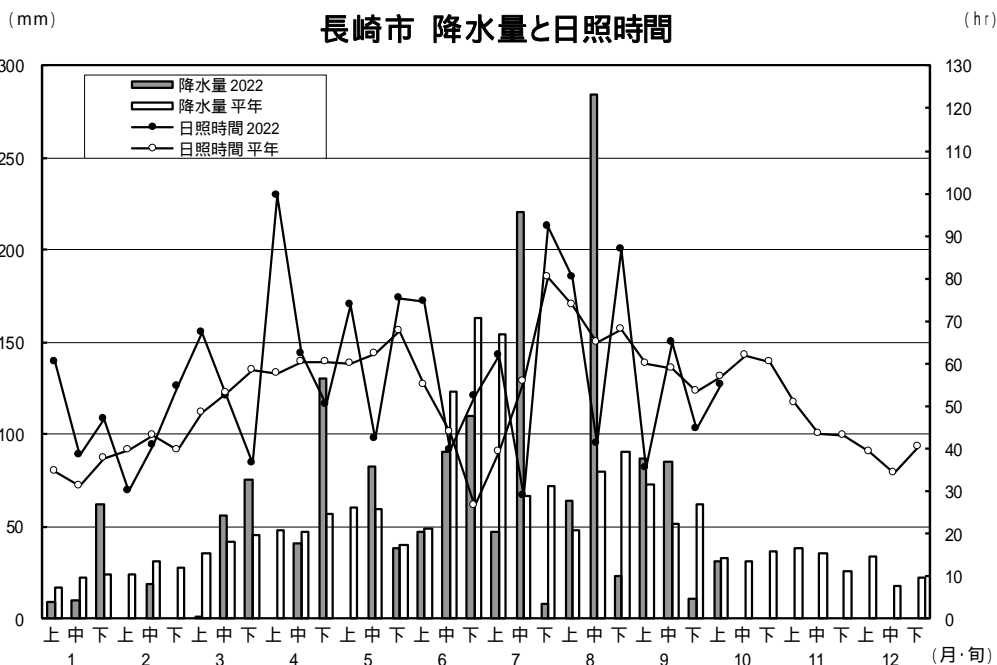
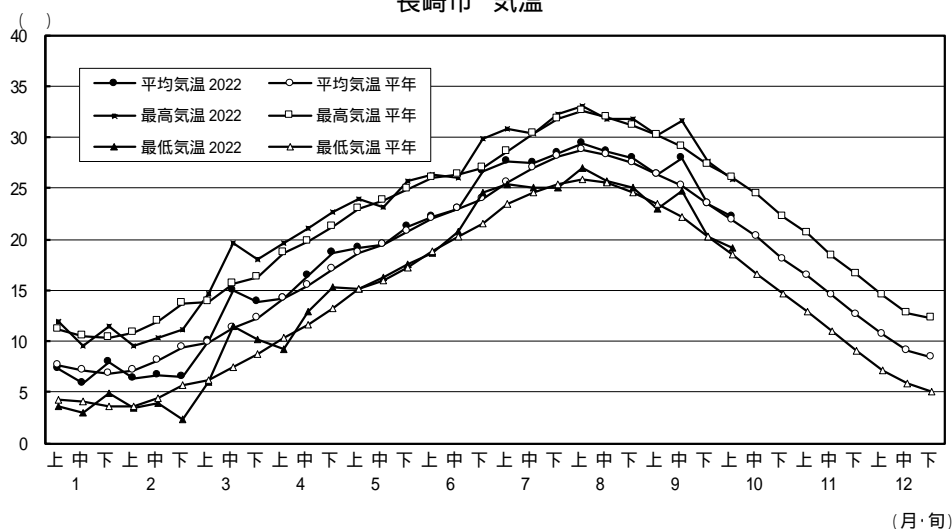
(令和4年10月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域

令和4年の気象経過(長崎地方气象台)

長崎市 気温



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>
この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

